

甲状腺機能低下症の犬に発生した 乳腺癌の1例

えそら動物病院
神谷 善太

症例

- 柴犬
- 12歳
- 避妊済雌
- BCS 5/5
- 既往歴:慢性の皮膚炎、外耳炎

初診

- 1年前から腹部に潰瘍があるとの主訴で来院
- 他院で縫合処置を5回行ったが離開
- 定期的に洗浄と包帯交換をしている
- 不活発で内股や指間に皮膚炎、色素沈着有り



血液検査

RBC ($\times 10^6 / \mu\text{l}$)	6.65	T-Cho (mg/dL)	409
Hb (g/dL)	12.0	TG (mg/dL)	270
PCV (%)	37.9	GLU (mg/dL)	95
WBC ($\times 10^3 / \mu\text{l}$)	6.8	BUN (mg/dL)	21.8
Plate ($\times 10^3 / \mu\text{l}$)	375	CRE (mg/dL)	0.8
TP (g/dL)	6.6	Ca (mg/dL)	11.6
Alb (g/dL)	3.2	NH3 ($\mu\text{g}/\text{dL}$)	35
Glb (g/dL)	3.4	Na (mEq/L)	148
GPT (U/L)	54	K (mEq/L)	3.9
ALP (U/L)	6797	Cl (mEq/L)	108

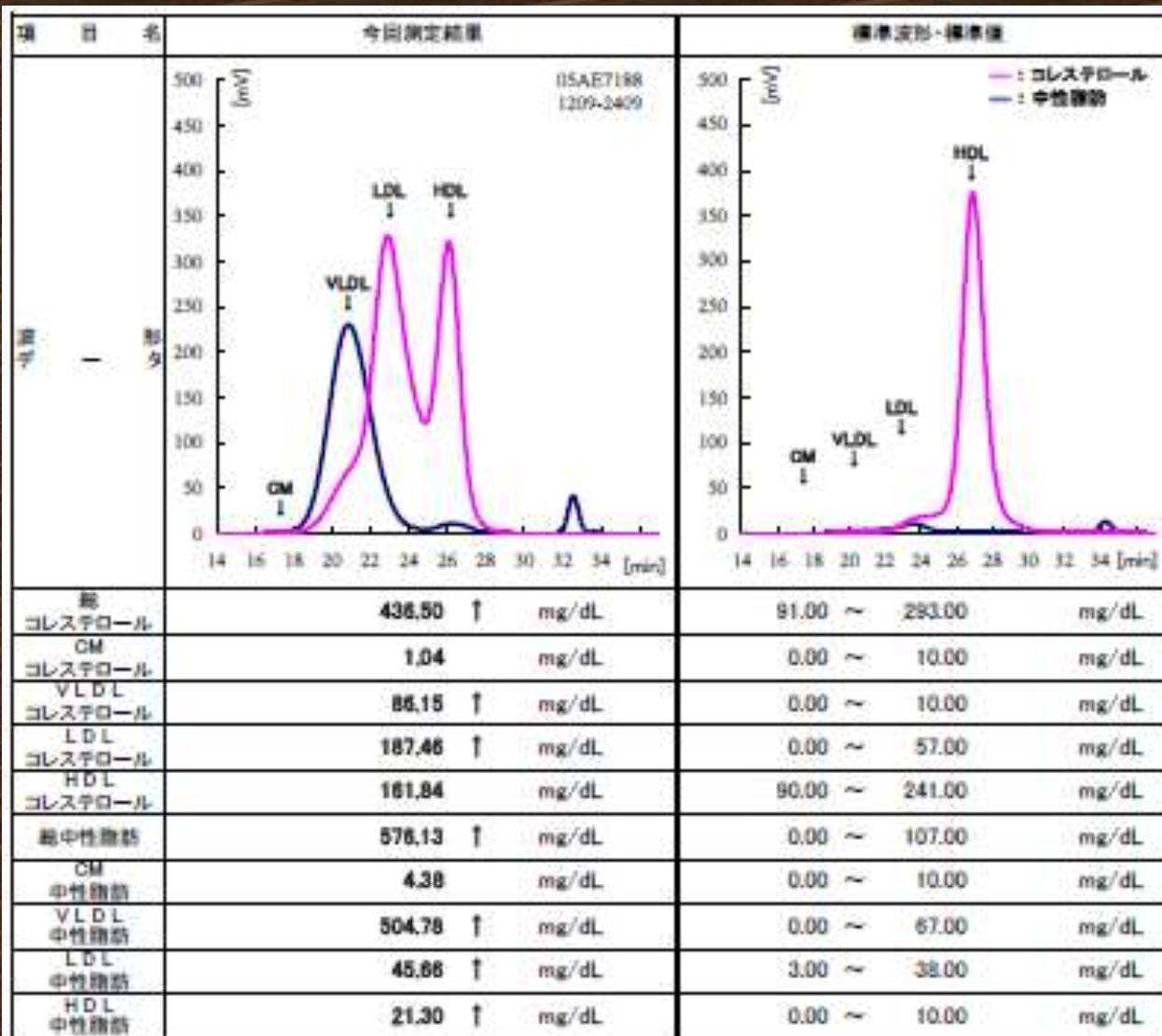
追加検査 1

- レントゲン検査：著変なし
- 腹部エコー：胆泥（＋）
- 病変部の細胞診：化膿性炎症
- 細菌培養及び薬剤感受性試験
 - : Staphylo. Intermedius GROUP
 - 各種抗生物質に感受性有り

追加検査 2

- TSH : 0.07 ng/ml
- T4 : 0.1未満 $\mu\text{g}/\text{dl}$
- FT4 : 0.3以下 ng/dl
- ACTH刺激試験 pre 0.6 $\mu\text{g}/\text{dl}$
post 4.5 $\mu\text{g}/\text{dl}$
(三菱化学メディエンス)
- Lipo Test (スペクトラム ラボ ジャパン)

パターン4「複合逆転型」



診斷

甲狀腺機能低下症
脂質代謝異常



難治性潰瘍？

治療

- レボチロキシシンナトリウム 0.02 mg/kg SID
- プラバスタチンナトリウム 1.0 mg/kg SID
- クラブラン酸アモキシシリン 15 mg/kg BID
- 療法食:セレクトプロテイン(ダック&タピオカ)
- 患部の洗浄、包帯交換

治療開始1.5ヵ月後

RBC ($\times 10^6 / \mu\text{l}$)	6.65	T-Cho (mg/dL)	214
Hb (g/dL)	11.7	TG (mg/dL)	84
PCV (%)	37.3	GLU (mg/dL)	98
WBC ($\times 10^3 / \mu\text{l}$)	7.6	BUN (mg/dL)	13.5
Plate ($\times 10^3 / \mu\text{l}$)	346	CRE (mg/dL)	0.9
TP (g/dL)	6.5	Ca (mg/dL)	10.7
Alb (g/dL)	3.1	NH ₃ ($\mu\text{g/dL}$)	23
Glb (g/dL)	3.4	Na (mEq/L)	147
GPT (U/L)	20	K (mEq/L)	4.4
ALP (U/L)	312	Cl (mEq/L)	115

・T4 : 1.4 $\mu\text{g/dl}$

・病変: 縮小傾向

外科的切除(治療開始2ヶ月)



病理組織学的評価

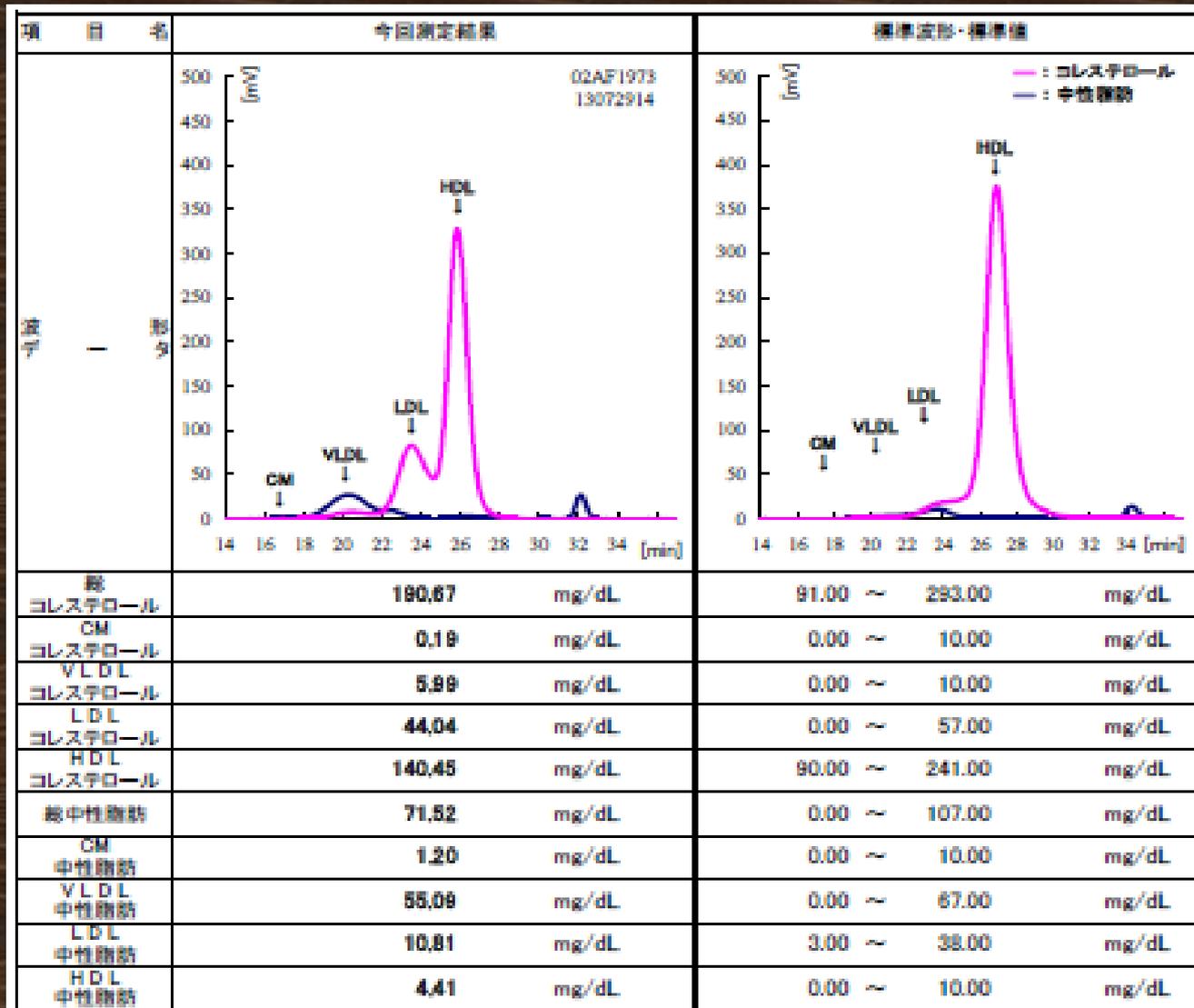
高悪性度乳腺単純癌を含む全層性潰瘍

マージン(-)

切除後1ヶ月



治療開始9ヶ月後



「標準型」

考察 1

- 難治性の潰瘍病変は基礎疾患や腫瘍性疾患を考慮する必要がある
- 掻爬による細胞診で診断が早期にできた可能性
- TSH、T4、FT4の結果から原発性甲状腺機能低下症と診断した
- リポテストによる複合逆転型の波形から脂質代謝異常から肝臓への脂質蓄積が疑われた
- 肝臓内や全身の血管壁にLDLが蓄積し肝内流路の閉塞や血管のアテローム化が起きていることが予想された

考察 2

- 高脂血症の治療は低脂肪食の給与が前提
- 慢性の皮膚疾患のある症例の為セレクトプロテイン(ダック&タピオカ)とした
- 甲状腺機能低下症の治療はレボチロキシン 0.02 mg/kg SIDで維持が可能だった
- LDLコレステロール合成を抑えることを目的に プラバスタチン1.0 mg/kg SID 夜投与とした
- 血行改善による術部創傷治癒機転への影響や血栓予防による転移抑制効果など術後の予後管理にメリットがあったと思われる

今後の予定

- 定期的なモニタリング
- プラバスタチンの減量の検討

謝辞

今回の発表にあたりご助言をいただいた
スペクトラム ラボ ジャパンの荒井延明先生
に深謝いたします